

図書館情報

●お問い合わせ
・本館 73-1616 ・清和 82-3033 ・蘇陽 73-2755
●休館日：全館共通(月曜日・月末日・祝日・お盆・年末年始)

— 読書とは、人間が創造した、もっとも価値の高い快樂の一つです。 —



今月のおすすめの本

作家宮尾登美子氏が2014年12月30日88歳で亡くなりました。宮尾登美子氏は大正15年高知県出身、昭和54年「一弦の琴」で直木賞を受賞しました。代表作と言えば、ドラマ化され大変話題となった「天璋院篤姫」(講談社)です。また、自伝的随筆「生きていく力」(新潮社)は、自身の執筆の原点である父親との葛藤や、農家の嫁としての日々などがつづられており、こちらもおすすめです。

故 堀信雄さんの奥さんノブ子さんから 図書館に寄付を頂きました。

堀信雄さんは、生前、山都町の行事や歴史にまつわるビデオやDVDをたくさん寄付していただきました。今回、奥さんのノブ子さんから図書館に寄付を頂きましたので、その寄付金で高齢者向けの紙芝居を購入させていただきました。今後、図書館での貸し出しや高齢者福祉施設で活用させていただきます。ありがとうございました。



※平成27年度移動図書館車巡回コースは次号に掲載されます。
ご不明な点がございましたら、お手数ですがお近くの図書館までお尋ね下さい。

本館にエルマーと竜のお話に登場する 可愛らしい竜がやってきました！ そして、みんなが楽しめるドリームハウスが完成！

本館へ可愛らしい竜のマスコットのプレゼントを頂きました。このマスコットは「エルマーの冒険 (ルース・スタイルス・ガネット著・福音館書店)」に登場する可愛らしい竜で、橋本恵子さんが作って下さいました。みなさんはエルマーのお話を読んだことがありますか。このお話しを読むととってもこの竜が好きになりますよ！



そして本館スタッフ手作りのドリームハウスが完成しました。こちらもとっても可愛くて、子どもたちに大人気です。おまごともできる小道具もそろっていて、まるでお話の世界にいるような気分になれます。とっても可愛らしい作品がいっぱいです。ぜひ見に来てくださいね！

第152回 芥川龍之介賞・直木三十五賞決定！

第152回芥川賞受賞作

「九年前の祈り」
おの まさつぐ
小野 正嗣 著
講談社



著者の小野氏は大分県出身の44歳で、現在は立教大学の准教授を務めています。以前にも芥川賞候補になっており、4度目のノミネートでの受賞となりました。受賞作「九年前の祈り」は、昨年46歳で亡くなった自身の兄へ思いを寄せながら書いたと述べられている小説です。

あらすじは、カナダ人の夫と別れ、障害のある息子と故郷である大分へ帰省してきた35歳の女性が、9年前の旅行の記憶と育児に揺れる心情を描いた作品です。

第152回直木賞受賞作

「サラバ 上・下」
にし かなこ
西 加奈子 著
小学館



著者の西氏はイランの首都テヘラン生まれの37歳で、デビュー作「あおい」を御存じの方も多いと思います。受賞作「サラバ上・下」は、主人公の「歩」の30年の人生を追った作品です。家族に翻弄され、大切な人との出会いと別れを繰り返しながら、自分の信じる者を必死に見つけようとする「歩」の力強い生き様が描かれています。